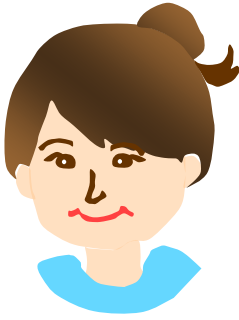


採用2年目（H30.4月採用）大卒女性



私は、平成30年4月、鹿児島地方検察庁に採用され、半年間、事件・令状担当として勤務した後、現在は、会計課主計係で主に国の歳入や歳出に関する手続を担当しています。

【志望動機】

大学で教育学部に所属していた私が検察事務官を目指したのは、大学の講義の一環として初めて刑事裁判を傍聴した際、分厚い事件記録を一生懸命めくって確認しながら、被害者の気持ちを背負って被告人の感情に訴えかける検察官の姿を目にしたことがきっかけでした。その検察官の姿は、困っている人の味方になり、法の正当な裁きをもって世の中の平和を守ろうとする、まさに「正義のヒーロー」で、純粋に「検察官ってカッコいい」という憧れを抱きました。このことがきっかけとなり、私は検察事務官を志望しました。

採用後の研修制度が充実しており、検察事務官が受講する各種研修の法律科目は、憧れの検察官から直接教わることができます。ですから、法学部出身の方はもちろん、私のように法学部出身者でなくても、安心して検察事務官を目指してください。

【鹿児島地検のアピールポイント】

基本的に鹿児島市内にある鹿児島地検の本庁で勤務できます。おおむね本庁5年、支部2年ぐらいの人事異動のサイクルなので、ほとんどが本庁勤務になります。

また、鹿児島地検の支部は、名瀬・加治木・知覧・川内・鹿屋の5つで、他の官庁に比べて出先機関の数が少ないと言えます。しかも、5つの支部のうちの3つの支部（加治木・知覧・川内）については、鹿児島市内から通勤することもでき、実際にほとんどの職員が鹿児島市内から通勤しています。他の官庁に比べて引っ越しなどの負担が少ないというのは、大きな魅力だと思います。

離島を含めた県内外への出張が多いことも鹿児島地検のアピールポイントですし、検察事務官のアピールポイントとしては、他の行政官庁に勤務する国家公務員に比べて給与面で優遇されているという点が挙げられます。

【国家公務員採用一般職試験受験者へのメッセージ】

鹿児島地検のアピールポイントは、ほかにもたくさんありますので、皆さん、是非、業務説明会で質問してみてください。皆さんの御参加をお待ちしています。

【令和元年7月掲載】